回覧

消防団広報

2ページ　出初式
3ページ　年末警戒・多度方面団
4ページ　訓練・募集
5ページ　特集・消火に使う水のこと
6ページ　女性消防団

第三十六号　二〇一七年三月
編集・発行
桑名市大字江場七番地
桑名市消防団　企画情報部会

【平成２８年度　全国統一防火標語】　消しましょう　その火その時　その場所で

出初式

一月八日

国営木曽三川公園輪中ドームにおいて、消防団・消防本部・自衛消防隊による、桑名市消防出初式が挙行され、心意気を披露すると共に、市民の安全・安心を願い、更に精進する事を誓いました。

式典では伊藤市長の観閲の下、徒歩部隊と園児を乗せた車両部隊による分列行進が実施された他、長年の功績者に表彰状の授与が行われ、喜びと責任の重さを改めて感じていました。

市長の告辞において、近年頻繁に発生している巨大台風や大地震による自然災害並びに昨年末の糸魚川市の大規模火災に触れ、今後も災害対策に万全を期す決意を述べられました。

式典の後半には、マリア・モンテッソーリ幼稚園の園児によるリズム演技の披露が有り、花を添えて頂きました。

終了後は、長良川河川敷において、消防車二十八台による一斉放水が実施されました。

団長より

平素は、消防団活動に対し、ご理解とご指導を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は熊本地震や鳥取県中部地震、台風十号などの災害により日本の各地で甚大な被害を受けました。

私ども消防団員は、火災をはじめ地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出、警戒巡視、避難誘導、災害防御など様々な現場で活躍が期待されており、その責務を自覚して、市民の「安全・安心」を守るため、消防技術の練磨に励み、一層の団結を推進しているところでございます。

桑名市におきましても南海トラフ巨大地震の発生が想定される中、災害に迅速に対応し、被害を軽減するため、地域住民の自主防災組織との連携強化を図り、災害に強い街桑名市を築いていきたいと考えておりますので、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

年末警戒

十二月二十八日～三十日

年の瀬を迎え、寒さも厳しくなり暖房器具が必要となると同時に、空気が乾燥し火災が発生しやすくなります。「安全・安心」な年末年始に向けて夜八時から警戒に当たり、消防車両で防犯・防災の呼び掛けをしながら地域巡回を実施しました。二十八日には、伊藤市長による巡視が市内六箇所で行われ、激励の言葉を頂きました。

しかし、年末警戒期間が終わっても、火災の危険性が減るわけではありません。普段から火元には十分気をつけましょう。

←消防本部にて

←多度分署にて

←長島防災コミュニティーセンターにて

多度方面団

秋季競練会・防火パレード

十一月十三日

多度すこやかセンター前駐車場において、競練会及び訓練礼式を実施しました。

競練会では、指揮者以下四名と吸管補助員の一チーム五人がポンプの運用、ホース延長からの放水により、標的を倒すまでのタイムと器具操作、動作の正確性を競いました。

今年は十八チームが出場し、天候にも恵まれる中、日頃の訓練成果を発揮しました。

結果は、二分団一班と二分団三・四班の二チームが同点優勝となり、第三位は五分団一班となりました。

また、同時進行で分団長が指揮を執り、訓練礼式として「停止間における各個訓練及び小隊訓練」を実施しました。

訓練終了後は、秋の火災予防運動として、多度町内を分団車両で行進する防火パレードを実施し、火災発生防止の啓発を行いました。

出初式にて感謝状

昨年三月末にて退団された、元多度方面団　副団長　鷲野真治様に、感謝状が贈られました。

自主防災訓練

於・伊曽島小学校

十一月二十九日

伊曽島地区では三年ぶりとなる自主防災訓練が行われました。各自治会・団体の方々の協力のもと応急救護訓練・心肺蘇生法・地震体験・煙体験・校舎屋上避難訓練を三班に分かれ体験していただきました。

応急救護訓練では、女性消防団、第四・第五分団の団員の指導のもと、身近にあるもので応急処置・搬送方法を行いました。

心肺蘇生法では基本となる心臓マッサージを体験していただいた所「やってみると凄く大変」といった声も聞かれました。

地震体験では「起震車」を用い地震の揺れ方を、また煙体験ハウスでは火災時の視界や煙の動きを体験していただきました。

校舎屋上避難訓練では、外階段を使い屋上まで実際に登って、避難場所の確認をしてもらいました。

その後、体育館において講話が行われ終了となりました。

今回の訓練で感じたのは一人では大変、でもだれかと協力すれば救護や避難がしやすくなることです。訓練の経験、反省点を今後の訓練に活かせるように消防団員も努力していきたいと思います。

第二大隊訓練

十一月六日

平成二十八年度行事として「西部地区大隊合同訓練」が桑名市消防西分署にて開催され、全五個分団(八、九、十、十二、十四分団)が日頃の成果を発揮しました。

この訓練は、大規模災害時における火災防御を目的として、指揮者及び各団員が一致団結し、その場に応じた行動力を養うために実施されました。

実際の火災発生時には、三人以下の人員でポンプ車を出動して現場に向かい、その後徐々に団員が到着してくるという事が実情ではないかと思われます。

そこで、この訓練では、三名乗車状態で水利近くに車両を止めた状態から開始し、徐々に参加団員数を全員まで増加(理想は、十二名以上)、また二ヶ所目の火点は、途中参加団員の情報から消火活動を開始するという想定で行いました。

今回はこの訓練を二回行いましたが、二回目は、一回目の自らの行動結果や他分団の見取り訓練からより精査することで一回目以上に適切な行動、連携がとれ、より安全で迅速な方法で消火活動を行えるようになりました。

実際には、消火活動を始めからやり直すことはできません。最初の訓練で、適切かつ安全で迅速な行動ができるよう、技術の向上に取り組まなければならないと感じました。

三重テレビ放送出演

「旬感☆みえ～」

九月五日

防災の日にちなみ「桑名のがんばる女性」というテーマで伊藤市長と一緒に出演させていただきました。活動報告や団員募集などのＰＲ活動をさせていただきました。

団員募集

一緒に社会貢献しませんか！

入団資格

十八歳以上の市内およびその近郊に居住か、また勤務されている健康かつ、やる気のある方。

活動内容

男性　住居地または勤務地の分団に所属し火災・災害・訓練に出動

女性　団本部付け消防団として、桑名市内全域にて予防・防災活動

特典

市内の消防団サポート事業所（お店）にて「桑名市消防団員証」を提示すると、各種サービスや割引を受ける事ができます。サービス内容は事業所（お店）にて異なります。

お店に来てください。
消防団応援します。
このマークのお店で！

◇◇◇◇　特集：消火に使う水のこと　◇◇◇◇

火事はどうやって消すの？

平成28年12月22日に糸魚川市で大きな火災がありました。
約150軒が被災し、30時間も燃え続け、消火活動が延々と続きました。
ニュース等で、タンクローリー車が消火用の水を運んだと耳にした方もあると思います。
薬品を使う場合もありますが、基本は水による消火です。さて、その水はどこから取っているのでしょう？

消火栓と防火水槽

消防車に入っている水を放水していると思ってみえる方もあるかと思います。実際に「水槽車」という車両もありますが、長時間に渡って放水を続けるほどの水は運べません。
川や池の水を利用することもありますが、ほとんどの場合、道路などにある消火栓や防火水槽を利用しています。

色々な消火栓

新しい地下式のマンホールは七里の渡しの絵入り

地下式の中身

地上式消火栓

防火水槽

公園・寺社・駐車場などの地下に防火水槽もあります。

その他の消火用水設備

マンションなどで、敷地内や建物自体に、送水口が設けられている場合もあります。

市民プールにも採水口がついています。

いざという時に使えるように

運転免許をお持ちなら、ご存じと思いますが、消火栓などの周囲は駐車禁止です。
マンホールの真上はもちろんダメですが、消防車が消火活動を行うスペースも必要です。

いざという時のために、車を駐めたり、ものを置いたりしないようにしましょう。
しかし、消火栓などには、標識が立てられていない場合がほとんどです。車を駐める場合には、黄色いペイントを目印に、消火栓などの邪魔をしていないか、必ず確認しましょう。

標識はほとんどありません

女性消防団の活動はブログでもご覧いただけます。
桑名市女性消防団　検索　←クリック！

今年の防災標語は、
「消しましょう
その火その時
その場所で」
火の元には十分
お気をつけください。

春季火災予防運動
3/1～3/7

秋季火災予防運動
11/9～11/15

女性消防団

平成29年春

毎月、19日の19～21時に、火災予防巡回広報を行っています。

桑名市内を５ブロックに分けて、二人一組で毎月順番に巡回しています。
広報中は、徐行運転で、音楽を鳴らしながらマイクで呼びかけています。
ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

20年目に入りました

平成10年に結成された女性消防団は、
今年20年目を迎えます。
これからも初心を忘れず、
地域のために活動していきます！

平成29年度の
全国女性消防団員活性化大会は、
11月に広島市で開催されます。

地域のために女性の優しさ・細やかさを活かして、一緒に活動しましょう！　団員を募集しています。
くわしくは→　桑名市消防本部　総務課　TEL24-5274

優しさ、気づかい、思いやり　つなげ大きな社会の和